

## 令和元年度 第2回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議開催結果

<日 時> 令和元年9月10日(火) 10時00分～11時20分

<場 所> 総合福祉センター4階 402号室

<出席者> 委員及び千歳市・事務局 計26名

【委員】21名(別紙名簿のとおり)

荒会長、森委員、横山(史)委員、青山委員、柳田委員、益山委員、伊東委員、佐藤(義)委員、  
菊池委員、大村委員、佐藤(貞)委員、川北委員、斎藤委員、五東委員、中川委員、下川部委員、  
清水委員、山崎委員、田口委員、奥貫委員、富永委員

欠席(5名)

青木副会長、古田委員、岡田委員、宮下委員、森本委員

【千歳市・事務局】5名

(千歳市)佐藤保健福祉部次長

(事務局)新谷障がい者支援課長、甲木障がい福祉係長、佐藤自立支援係長

千歳市障がい者総合支援センター 横山センター長

<配布資料(別添のとおり)>

(1) 令和元年度千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会報告(事前配布資料)

(2) 令和元年度第1回手話言語条例推進専門部会報告(当日配布)

<次 第>

1 開会

2 会長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

昨年の今頃を振り返ると、9月5日には大きな台風が通過し、その直後には北海道胆振東部地震の発生により大規模停電、いわゆる「ブラックアウト」が起き、500万道民の生活に多大な影響を及ぼした。電力がないことの不便さを痛感しその重要性を再認識させられたところであり、特に、医療的ケアが必要な方など障がいのある方々にとっては大きな困難に直面したものである。

ブラックアウト対策については北海道電力で改善策が練られているところであり、市においても、防災主管課をはじめ各担当課において災害時の対応に関する見直しが検討されているが、最低限の生活を自ら確保することが重要であり、「自助・共助」による災害被害軽減のための備えを考え直す教訓ともなった。

先日、市の防災訓練が実施された。すべての課題を解決することは難しいことであると思っているが、これら訓練などで得た経験を踏まえながら、災害時における自助・共助の在り方などについて委員各位と意見交換を行っていければと考えている。

### 3 議題

#### (1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会報告

##### 相談支援部会(奥貫部会長)

今年度は活動の一つとして、地域生活支援拠点の整備に向けた課題の整理を行うこととし、部会構成員への地域生活支援拠点に関する理解を深めるとともに、地域における社会資源の現状把握に着手したところである。

また、地域課題・困難事例の情報交換を行っているが、今年度の話題としては、幼少期から成人期、成人期から高齢期への移行におけるサービス提供のスムーズな連携と、その際に当事者にとって不利益とならないような支援の在り方について情報交換を行うこととしている。

このほか、年4回の障がい福祉勉強会の開催を企画・実施している。1回目は7月に開催しており、「自立支援協議会について」・「千歳市の概要について」というテーマで実施し、市内19機関から35名の参加があった。

2回目は9月27日(金曜日)に「就労支援の実際について」というテーマで開催する。就労支援に関する具体的な事例を通じて、理解を深めることを目的とするものである。

#### 【質 疑】

##### < A 委員 >

障がい福祉サービスを受けていた人が、65歳になり介護保険の認定を受けることで、それまで受けていたサービスが受けられなくなり困ることがあるが、こういった場合どのように手続きを進めるのが良いのか教えていただきたい。

##### < 奥貫部会長 >

65歳になると障害福祉サービスに相当する介護保険サービスがある場合は、原則介護保険サービスに係る保険給付を優先して受けることになるが、一律に介護保険サービスを優先的に利用するものではなく、申請者の個別の状況に応じ、申請者が必要としている支援内容を介護保険サービスにより受けることが可能かを判断することとなっている。

実際に65歳になる時に、障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する際にトラブルが起きることがあるが、相談支援部会には、包括支援センターの職員にも参加いただいております。なるべくスムーズに移行できるような連携体制などを話し合っているところである。

##### < B 委員 >

介護保険で対応できるサービスと介護保険では対応しきれない部分をどうするかということを行行政や相談事業所と調整しながら個別の状況に応じて検討していくこととなるので、65歳になる前のある程度早い時期からご相談いただきたい。

##### こども部会(田口部会長)

8月10日(土)にレッツスマイル夏を開催した。参加者は16名(うち保護者2名)で、千歳高校と文教大学の学生ボランティア15名の協力のもと、小樽市総合博物館で鉄道展示室など

の見学、蒸気機関車の乗車体験などを行った。参加者アンケートの結果は非常に良好で、冬もぜひ参加したいなどの感想が得られたところである。

また、発達が気になる子どもの保護者を対象とする座談会の企画を進めており、開催日を9月26日(木)とし、日ごろの悩み事についてテーマごとのグループワークを行うことなどを予定している。

このほか、事業所の空き情報の共有をはじめ、登校困難な子どもへの対応の在り方について課題共有を図っており、学習不振や学校に行けなくなりそうな子どもに対する支援力の向上を図るため、各事業所の取組例や成功体験などの情報交換を行いながら、今後の部会活動を考えていくこととしている。

はたらく部会(下川部部会長)

奇数月に部会を開催しており、5月と7月に開催したところである。

5月においては、新年度の活動方針と事業内容を協議し、視察研修、就労事業所合同説明会の企画、開催を主な事業として行うとともに、困難事例等の意見交換も行うこととしたところである。

7月には、視察研修の具体的な検討を行った。近年は他市の事業所等の見学を行っていたが、身近な市内事業所の取組状況を見たいという意見が多かったことから、ミナモト就労継続支援事業所、晴レルモキッチン、エコファクトリーを見学することとした。本視察研修は、9月5日(木)に実施済みである。

また、同時に合同説明会の開催準備も進めており、引き続きこども部会との合同開催とし、11月30日(土)に総合福祉センター4階(402号室は就労事業所、403号室は放課後等児童デイ等児童関係事業所)を会場に開催する。詳細については、今後こども部会と協議しながら、準備を進めていくこととしている。

地域生活部会(岡田部会長欠席のため佐藤事務局次長が代理で報告)

活動方針については、前回協議会で報告したとおり、地域生活・在宅支援における課題の把握を活動の中心とするが、震災への対応についても地域生活を送るうえで大きな課題の一つであると考えている。先日、9月3日(火)に2回目の部会を開催したところであるが、北海道胆振東部地震の発生から一年が経過する中で、この災害を風化させないためにも、あらためて震災を振り返るとともに、自助・共助、できること・できないことの整理を行うため、当事者団体や関係事業所など幅広くお声掛けし、意見交換を行う機会を設けることとした。

大枠として、開催日は10月6日(日)の午後とし、きょうされん(全国共同作業所連絡会)が制作した東日本大震災における障がい者の避難に関するドキュメンタリー映画「星に語りて」の上映と、防災等に関する講話、グループワークの3本立てでの開催を考えている。早急に詳細を固め、実施内容が固まり次第委員各位にもご案内差し上げたい。

手話言語条例推進専門部会(佐藤(義)部会長)

前回の協議会定例会議において、専門部会としての設置を認めていただき感謝申し上げます。

8月30日(金)に1回目の部会を開催し、当専門部会の活動方針を協議した。事務局から自立支援協議会の概要説明を受けたのち、千歳市手話言語条例の制定までの経緯と条例の内容について確認を行ったうえで、活動方針を当該条例第6条に規定されている施策の推進に関する検討を行うことと決定した。部会開催は3か月に1回程度とし、次回は10月ごろに開催したいと考えている。

#### 進路連絡会議(横山事務局次長)

進路連絡会議は協議会の協力組織として年2回(夏・冬)開催している。高等支援学校、高等養護学校等の担当教諭を中心に、市内の就労事業所、相談支援事業所、ハローワークを構成員として、卒業生の進路、在校生の進路希望等の確認を行いながら、必要な支援の調整を行っている。

今年度は、7月17日(水)に1回目の会議を開催したところであり、平成30年度の卒業生(対象8校)の進路動向を共有した。内容としては、卒業生28名中9名が福祉事業所(就労継続A型:2名、就労継続B型:2名、就労移行支援5名)を利用しており、生活介護は2名、一般就労が16名、進学が1名となっている。なお、近年の傾向としては、卒業と同時に実家を離れて生活されるケースが増えてきており、働く場の確保にとどまらず、生活の場の確保についても検討が必要になってきている。また、在校生の進路希望の共有を図っており、現高校3年生29名中13名が福祉事業所への通所を希望している状況にある。

情報交換も併せて実施しており、「住まい」、「一般就労」、「福祉就労」の3つのテーマで情報交換を行い、将来的な住まいの確保が課題であることや社会人としての基本的なマナーを身につけることの重要性等について情報共有を図ったところである。

#### 4 その他

事務局から報告(新谷事務局長から次の4点について報告した。)

(1) 来年「北海道障がい者スポーツ大会」が石狩管内で開催される。石狩管内の自治体で協議した結果、開催日を10月4日(日)とする方向で決まったところである。

本格的な打ち合わせは今後行うことになっており、詳細は未定であるが、千歳市が陸上競技を、江別市がバスケットボール、恵庭市が車いすバスケ、北広島市がフットベースボール、石狩市がサッカーとソフトボールの会場となる予定である。

今後具体的な計画を立てていくこととなるが、陸上競技の参加者数は450人と非常に多く、種目も多岐にわたることから、委員各位の所属機関等にも協力をお願いすることがあるかと思うので、よろしく願いしたい。

(2) 前回の協議会で説明した成年後見支援センターについて、正式に千歳市社会福祉協議会に委託することが決定した。センター長、相談員の体制でスタートする。

本格的に事業がスタートした時点で委員各位に改めてお知らせしたい。

(3)「みんなをつなげる会～すべての人が心のかよう社会を！～」という団体からの提案を受け、昨年度から市民提案型協働事業として「障がいのある方とのコミュニケーションの構築」に関する事業を実施しており、障害に対する理解に関する研修、懇談会の開催を行っている。

昨年度9月にはダウン症者の書家である金澤 翔子氏の母、金澤 泰子氏を講師に迎え、「共に生きる～ダウン症者の書家 翔子と歩んだ道～」という演題で講演会を開催したほか、12月と2月には障がい者理解のための研修会、11月は障がい者との懇談会を開催した。

本協働事業は2か年事業となっており、今年度は6月に研修会、7月に懇談会を開催したところであり、今後は、10月と1月に研修会、12月には社会福祉協議会との共催事業を実施する予定となっている。

(4)農福連携について、去る8月21日(水)に江別市、恵庭市、北広島市、千歳市と道央農業振興公社などの農協関係の団体が集まり、話し合いを行った。これは働く場を求める福祉と働き手を求める農業のウィンウィンのマッチングを行うものであり、現在は秋の収穫時期を迎えており、収穫作業や袋詰めなどの体験ができるので、興味のある方は障がい者支援課まで連絡いただきたい。

#### 【質疑等】

< 荒会長 >

まず成年後見センターがいよいよ稼働する。今後は、障がいのある方々がどのようにセンターを利用できるのか周知に努めていただきたい。

次に、北海道障がい者スポーツ大会についてだが、かなり大きな大会であると思われるが、市として運営体制等をどのように考えているのか伺いたい。

< 新谷事務局長 >

同スポーツ大会については、管内同時に開催することからボランティアの確保は地元で行うこととなる。少しでも多くの皆様にサポートしていただきたいと考えているが、現時点で開催日と各市の担当種目以外の詳細が決まっていないので、場合によっては、協力依頼が直近になる可能性もあるが、ご理解いただき、可能な範囲で協力をいただければ幸いである。

< 荒会長 >

最後に私から委員各位にご案内申し上げます。

来年2月に「スペシャルオリンピックス 2020 北海道」が開催される。この大会は知的障がいのある方たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場として開催されるもので、札幌市と江別市と岩見沢市で様々な競技が行われる。冬の寒い時期ではあるが、興味のある方はぜひ観戦に行ってください。

5 閉会

令和元年度第2回 千歳市障がい者地域自立支援協議会出席委員名簿

任期：令和2年10月28日まで

選考区分		所属機関・団体等	委員役職・氏名	区分補足	出欠		
(1) 公募	1		森 勝 子	障がい者家族	出席		
	2		古 田 聖	障がい当事者	欠席		
	3		横 山 史 紀	一般市民	出席		
(2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者	4	千歳公共職業安定所	上席職業指導官	青山 新 吾	雇用・労働行政機関職員	出席	
	5	北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室健康推進課	保健係長	柳 田 基 貴	保健・医療行政機関職員	出席	
	6	千歳病院	精神保健福祉士	益 山 桂 太 郎	医療機関職員	出席	
	7	社会福祉法人 千歳いずみ学園	総合施設長	荒 洋 一	障害者支援施設役員	出席	
(3) ア) 関係機関及び団体等の代表者又は推薦を受けた者障がい者又は障がい児の家族団体又は支援団体等	8	千歳身体障害者福祉協会	会長	伊 東 ミ ッ 子	身体障がい当事者	出席	
	9	千歳聴力障害者協会	会長	佐 藤 義 典	聴力障がい当事者団体	出席	
	10	千歳視覚障害者福祉協会	会長	菊 池 悦 子	視覚障がい当事者団体	出席	
	11	千歳市肢体不自由児者父母の会	会長	岡 田 美 智 子	身体障がい者家族	欠席	
	12	千歳市手をつなぐ育成会	会長	青 木 繁 雄	知的障がい者家族	欠席	
	13	千歳市つくし会	会員	大 村 徳 子	精神障がい者家族	出席	
	イ) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関する関係機関又は団体等	14	千歳市民生委員児童委員連絡協議会	会長	佐 藤 貞	地域福祉団体	出席
		15	千歳市社会福祉協議会	専従通訳者	川 北 美 由 紀	地域福祉団体	出席
		16	千歳商工会議所	事務局長	宮 下 明	経済団体	欠席
		17	北海道千歳高等支援学校	教諭	斎 藤 芳 朗	高等支援学校	出席
		18	千歳市立北進小中学校 (相談支援・地域連携部)	教諭	五 東 康	特別支援学級	出席
		19	北海道南幌養護学校	教諭	中 川 道 博	特別支援学校	出席
		20	就労推進室やませみ	就労推進員	下 川 部 志 穂	就労推進員	出席
ウ) 障害福祉サービス事業所等	21	生活介護ステーションゆみな/ 支援センターゆみな	所長	清 水 道 代	通所系障がい福祉サービス事業所	出席	
	22	就労移行支援事業所ゆうび/ 就労継続支援事業所ゆうび	所長	山 崎 千 尋	就労系障害福祉サービス事業所	出席	
	23	青葉の杜 / 青葉の郷	施設長	森 本 洋 行	G・H・C・H、自立訓練事業所	欠席	
	24	サポートセンターエブリ	所長	田 口 幹 子	移動支援・日中一時支援事業所	出席	
エ) 相談支援事業所等	25	千歳地域生活支援センター	センター長	奥 貫 あ い 子	千歳市委託相談支援事業所	出席	
	26	千歳市地域包括支援センター	北区地域包括支援センター長	富 永 壮	介護保険サービス	出席	

# 令和元年度 第2回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議

日時：令和元年9月10日(火) 10:00～

場所：総合福祉センター 4階 402号室

## <次 第>

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 議 題

#### (1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会活動報告

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

手話言語条例推進専門部会

進路連絡会議

### 4 その他

### 5 閉 会

平成 31 年度 第 1 回 相談支援部会 報告	
日 時	平成 31 年 4 月 17 日(水) 16:00 ~ 17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(大久保相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(松田課長、甲木係長)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・中土井相談員)
要 旨	<p>1. 支援課より 地域生活支援拠点等について</p> <p>2. 確認事項(昨年度振り返り、新年度部会方針)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 障がい者支援課より 地域生活支援拠点等について説明があった。</p> <p>(1) 障害者支援課松田課長より、地域生活支援拠点整備における千歳市の方針が説明された。整備目的、必要な機能について確認がある。整備目的としては、緊急時の相談支援機能と短期入所等の充実をすることにより安心を担保できる体制作りを行うため。また、地域生活への移行をしやすいするため体験の場の充実を行うためである。グループホームの枠を年間で買い取って体験の枠として整備している地域もある。</p> <p>必要な機能として「相談」「体験の機会・場」「緊急時の受け入れ・対応」「専門性」「地域の体制づくり」の5つがある。5つの機能全てを満たす事が基本だが、初めから全てを行わなければならないわけではなく、地域の実情に応じて必要な機能から順次進めてゆけばよい。今期の障害福祉計画中に道筋を立て整備をしていく必要がある。</p> <p>整備手法として一つの障害者支援施設が中核となり整備をする多機能拠点型と、市内の福祉サービス事業所の幅広い連携により整備をする面的整備型があるが、全国の整備済み自治体の傾向を見ると85%程度は面的整備型を採用している。千歳市でどうしてゆくかについては相談支援部会等で意見を聞き検討した上で、面的整備型の採用が良いのではと思うが、今後も市を含め関係機関で検討を続けていきたい。厚生労働省から出ている好事例集も見てほしい。今後検討する際の資料については市で用意をする予定。</p> <p>(2) 奥貫部会長から、地域生活支援拠点の検討に向けた専門部会を立ち上げることも案が上がったが、相談支援部会と構成員がほぼ被ることから相談支援部会で行うのが望ましいと自立支援協議会定例会で共有されたことが話された。</p> <p>現在の相談支援部会で行っていることはそのまま継続した方が良いので、通常の部会の他に地域生活支援拠点について話し合う機会を作り、参集範囲も拡大するなどして効率的に進めていけるようにしたい。</p> <p>(3) 福澤相談員から、なぜ今地域生活支援拠点整備なのか、中土井相談員から、どこまでの整備をすることが求められているのか到達点がわかりづらいのではとの質問があり支援課松田課長が回答している。</p> <p>前期の障害福祉計画にも盛り込まれていた内容ではあったが、全国的に進んでいない現状があることから、厚生労働省から今期は行うよう意向も出ている。地域生活への移行</p>

	<p>は以前から言われていることであり、本来ならばもっと早くに整備することが望ましかった。千歳の特徴としてできる拠点づくりを行っていききたいので、協力してほしい。整備のレベルも様々で、極論として現状で整備ができているとする事もできなくはないが、地域に足りていない機能は間違いなくあるので、まず何が必要なのかということ話し合っていきたい。</p> <p>(4)吉田センター長より、高齢の分野では包括支援センターが相談機能としてあり、地域の資源とつなぐ役割として生活支援コーディネーター、医療と連携する機関も整備が進んでいると話がある。</p> <p>(5)自立支援協議会の運営については佐藤係長、地域生活支援拠点整備については甲木係長が担当する。</p> <p><b>2. 確認事項</b></p> <p>(1)昨年度振り返り</p> <p>数年来の部会の課題として、地域課題の中から始まった障害福祉勉強会の話合いが大きな割合を占めてしまい、地域課題そのものについて検討する機会が少なくなりました。結果、障害福祉勉強会企画チームを別立てにし、通常部会に参加していない若手職員を構成員に加えバランスを取りながら当日サポート等する形になっている。地域課題については、なかなか活発になりづらい。</p> <p>(2)新年度部会方針</p> <p>障害福祉勉強会の周知方法について、年度初めに年間の予定としてテーマと趣旨を伝え、第1回目の案内をできるだけ手渡しするようにしていたが、以降の連絡がFAXの一斉送信となっており漏れの出ることもあった。改めて周知方法を整備した方が良い。</p> <p>障害福祉勉強会の内容としては詳細の工夫はあれどこれまでと同様の物を基本ベースとする。寸劇は好評だったため今後他の会にも拡大しても良いかもしれない。</p> <p>対象を初任者に設定しているために企画チームには若手を採用しているが、若手ゆえに多くの仕事を振りづらいという面もある。また相談支援事業所職員は日中の時間を作りやすいがその他の事業所では日中は難しいと思われるので、役割分担に偏りが出ているため工夫が必要。</p> <p>今後も障害福祉勉強会の企画を相談支援部会で持っていくのかも検討が必要。</p> <p>相談支援部会の参加メンバーについて、支援課認定係に声をかけた所、事前に予定がわかれば可能との事だった為、今後は必要時連絡をしていく予定。</p> <p><b>3. その他</b></p> <p>(1)次回の開催は5月中旬以降で調整をする。</p> <p>(2)障がい者地域自立支援協議会全体会は7月頃に開催予定。</p> <p>(3)今年度の相談支援部会開催方式も前年度同様、月に1回16:00~17:15となった。各機関の業務の都合上実施しない月もある。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年5月23日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、北星病院(水梨相談員)、障がい者支援課(新谷課長、石黒主事)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市から</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 支援課より 地域生活支援拠点等について</p> <p>(1)障がい者支援課石黒氏より、地域生活支援拠点等の整備に向けて、相談支援部会としてどのように課題を整理し、どのような機能を持たせるのか等検討していくため、今後のスケジュールの説明がなされる。</p> <p>令和1年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月～8月 現状把握と課題整理：千歳市にある社会資源の把握、各事業所にアンケート調査を実施、結果をまとめ、8月までにニーズの把握を行う。 どこから手をつけていくのか、予算等意見をまとめていく</li> <li>・9月 結果をまとめ、第2回協議会定例会に整備案を提出 整備すべき機能を検討し、拠点を担う事業所の役割、果たす機能について必要に応じて自立支援協議会に意見を伺っていく。</li> </ul> <p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月 第2回協議会定例会にて最終案の提示、検討・協議・決定</li> <li>・年度末に整備完了し、令和3年度からは何らかの形で開始されるため、それに向けて話し合いを行っていく。</li> </ul> <p>以上の大まかな流れで動いていく予定。</p> <p>(2)第1回定例会兼全体会議は7月に開催予定。その際に障がい者支援課よりアンケート調査についての報告を頂く予定。 また、地域生活支援拠点等についての話し合いは不定期とのこと。障がい者支援課甲木係長も出席予定とのこと。</p> <p>(3)地域生活支援拠点等の5つの機能について再度確認の意味で石黒氏に述べて頂く。その中の「地域の体制づくり」について、具体的にどういうイメージでいるのかとの質問が出る。石黒氏より、基幹相談支援センター事業所や委託相談事業所を活用しながら、例えば緊急避難場所の確保、何かあった場合にどういう流れでどこが対応していくのか等地域のニーズに対応できるように整えていくこと、とあげている。 その実現のために取り組む内容については今後検討していく。</p> <p>その他、ある程度出来上がっている現状の中、それぞれの点と点を結ぶような役割のコーディネーターを置く、ということで整備が進むとするのか、ある程度の役割を担っているところに新たな役割を付加していく等、千歳市としてどのような体制が望ましいか検討していく。</p>

また、地域生活で困った時に相談できる拠点の場所や利用方法等わかりやすく周知していくことが大切との意見も出ている。

## 2. 障がい福祉勉強会について

現段階では日程や会場は未定。

前回の話し合いの中では、大枠では昨年度と同様年4回の開催を予定している。第1回目は市の概況と自立支援協議会について、7月に開催予定。講義・グループワーク・交流などを行う。

その他、まだ日程は決まっていないが、7月のどこかで午後から学校の進路連絡会が行われるため、先生方のご都合しだいではご参加頂くのも良いかもしれないとの意見がある。早めに日程等を決めて、広く周知していく。

## 3. 地域課題について

多機関でケースに関わる場合、支援のタイミングやどのようにつないでいくのが良いのかという意見があった。医療機関から受けたケース等を地域につないでいくタイミングや、ひとつの機関で終結まで抱え込んで困難を感じている事業所もあるのではないか。

- ・例えば65歳以上の精神疾患が疑われる高齢者をどのように医療機関につないでいくか。
- ・高齢の親と障がいのある子への支援で、介護保険サービスと障がい福祉サービスそれぞれの事業所が対応しているケースがあるが、両者のサービスでは考え方が違うのか、それぞれどこまでできるのか、あいまいな面がある。ご本人の役割としてできるところはご本人が行うという線引きはあるが、サービスに隙間が生じているのでは。関わる際には経済面や家庭状況等様々な面を勘案しながら進めている。
- ・精神障がい者に対する支援～就労支援事業所・相談支援事業所と医療機関の連携について、サービスの開始の時点で病院が情報を知らないこともある。それがご本人にとっていい場合もあるが、症状が悪化した時のスムーズな対応につながり、いざという時に心強いこともある。ご本人の了承を得た上で、就労支援事業所と医療機関の間で情報共有を行いながら連携していくことが緊急時には大いに役立つと思われる。
- ・若年者の相談、発達障がいに関するお問い合わせ、発達検査の希望等の相談が増えてきている傾向にある。
- ・不登校児の行き場・居場所・支援がなかなかない。また、社会的引きこもりについて、ご本人が病院の受診や外に出るきっかけを見出せずにいるため長期化・重症化していく。

## 4. その他

(1) 次回の相談支援部会開催の日程については、各機関の予定を考慮し、6月中旬以降18日・19日・20日以外で調整をする。

(2) 次回話し合いたいテーマ・内容について～自宅で生活されている重度心身障がいの方の緊急時の対応について。主介護者の突然の入院などにより緊急的にご本人の受け入れ先が必要な場合、事前にどのように取り決めているのか、現実問題として千歳市内・近郊区町村では受け入れ先がなく厳しい状況。事例などを交えて現状や課題・今後の体制作り等について話し合うこととなる。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第3回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年6月19日(水) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(大久保相談員・宮坂相談員)千歳こぶしくリニック(松田相談員)、障がい者支援課(新谷課長)千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市から</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 千歳市から</p> <p>(1) 自立支援協議会の定例会兼全体会議の開催日程について 今年度は議会の関係上7月に開催される予定であったが、7月25日(木)の午前中に決定となった。案内については後日事務局から送付、内容の詳細は7月上旬に開催される事務局会議で話し合われるが、例年相談支援事業所からの相談に関する報告、各部会の報告・方針の発表、協議会の全体像の確認等が行われる。</p> <p>(2) 議会の傍聴から(市議会議員落野氏による質問の一部) コミュニケーション条例の策定に向けて 障がいのある方がコミュニケーションツールを活用しながら、生活しやすくなるような条例の必要性について、興味・関心を持つ人が多くいることで市として取り組む方向で動いて頂けないか、とのお話があった。 千歳市手話言語条例の策定から1年数ヶ月経ち、活動状況等はどうか。 千歳市～手話通訳者1名増員、リーフレット作成や記念講演等啓発活動、手話講座の受講率は増加傾向にあることなどから、地域に根付いてきているのではとのこと。</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>(1) 先日、勉強会企画チームのメンバー4名が集まり、今年度の年間予定・テーマについて話し合った。基本的には前年度を踏襲する形で行うこととし、経験の浅い方もより気軽に参加できるような研修を目指し企画を進めていく。また、内容を福祉サービスに限定せず、就労であれば福祉的就労の他一般就労について、住まいについても1人暮らしのケースを取りあげる等幅広く設定していく予定である。</p> <p>(2) 障がい福祉勉強会 第1回目について 日時は7月17日(水)の18時～20時、会場は千歳市総合福祉センター402号室に決定。17時半から受付を行い、開会挨拶を千歳市障がい者支援課の新谷課長に依頼。講義のテーマは昨年度同様「千歳市の概要と特色」、「地域自立支援協議会の機能と目的」の2つであり、講師は千歳市障がい者支援課自立支援係の石黒主事である。その後交流会(グループワーク)を行い、勉強会終了後は希望者で懇親会を行う予定である。</p> <p>(3) 勉強会の案内の周知方法・周知範囲について 送付先の事業所リストを確認し、各事業所への訪問時や、各部会の時に配布、FAX送信も行い周知していく。</p>

### 3. 地域課題について

#### (1) ひきこもり支援について

・相談支援事業所では、ひきこもり傾向にある10代後半から20代の若年層の方・そのご家族からのご相談が多くなっているように感じる。関わりの流れとしては、定期的に面談を重ね、関係性を築いていきながら、何かを始めるきっかけ作りの場へとつないでいく。

・18歳未満から関わりを始め、18歳になってから障がい福祉サービス利用へとつないでいった時、事業所の利用を続けていくことが逆に負担になり、ご本人の状態の悪化につながるケースもある。そのため、実際に通所や就労を始める前にリスクも含めて考え、よく検討しながらすすめていくことが大切との話が出る。

・勉強の仕方がわからない、人とどう接したらよいかわからないという困りごとの相談を受けることがある。最初のきっかけづくりとしての場や情報の提供、ボランティア等の見守りがある中で、仲間づくりや何かを始めていける方向に向かっていけるようなことをできたら、との話が上がる。

・学びの場として、チャレンジ塾は生活困窮者世帯が対象であるが、あるケースで問い合わせをしたところ、大学のボランティアサークルに所属する学生が何名か対応可能とのお返事を頂いた、ということがあった。

・ご本人やご家族が障がいについて受容が困難なケースや、支援に対する拒否感等により、適切な病院受診や支援につながらずに状況の改善がなされることなく経過していくケースも存在している。

・ひきこもりと決めつけず、次につなげる一歩として、何かできることはあるのはいいか、その後の選択肢を広げられるような取り組みについて、今後も検討していきたい。

#### 4. その他

(1) 会議の参加率が低い状況が続いているため、日程調整を早めに行うようにするとともに、各機関に対するお声かけを改めて行っていく。

(2) 次回の会議のご案内の際に、地域課題に関する発案や企画の持ち寄りを提案することを予定。また、他の地域の様々な取り組みの等情報収集を行い話し合いに活かしていく。

(3) 障がい福祉勉強会当日は企画チームが中心となり動いていくが、グループワークのファシリテーターを相談支援部会の参加者にもご協力して頂く。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第4回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年 8月 22日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、こども療育課(館山相談員・宮坂相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(佐藤係長)、夢民(戸田氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・吉田)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千歳市から(全体会報告他)</li> <li>2. 「地域生活支援拠点等」に関する意見交換</li> <li>3. 障がい福祉勉強会について</li> <li>4. 地域課題(情報交換)について</li> <li>5. その他</li> </ol>
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千歳市から(全体会報告他) <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回自立支援協議会の定例会兼全体会議(7月25日)についての報告</li> <li>(1)今年度の障がい者福祉に関する予算、成年後見センター設置に関する予算が承認された。これまで相談支援事業所が個別に受けていた成年後見に関する相談を社会福祉協議会に実務を委託する。センター設置は10月中旬頃となる予定。今後、成年後見の利用を希望される方は社会福祉協議会内に設置される成年後見センターへつなぐこととなる。</li> <li>(2)千歳市総合福祉センター4階に、現在1階に敷かれている黄色のプラスチック製ソフトマットを設置することになった。</li> <li>(3)千歳市障がい者総合支援センターChip・千歳地域生活支援センター・就労推進室やませみから、平成30年度の事業実績の報告があった。また、各部会から平成30年度の年間活動報告と今年度の活動方針についての報告があった。</li> </ul> </li> <li>2. 「地域生活支援拠点等」に関する意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)障がい者支援課佐藤係長から、地域生活支援拠点等とは何か、必要な機能、整備手法の種類、協議・整備スケジュール等について説明があった。また、地域の実情を鑑み、初めからすべての機能を整備する必要はなく、現状把握を行いながら不足している機能についてPDCAサイクルにより最終的な整備を進めていくとの説明があった。その他、居住系の9事業所に対して実施したアンケート調査の回答について報告があった。「地域で不足している社会資源について」の問いに対して、障がい特性に合わせた生活の場(グループホーム等)との回答が多く見られた。</li> <li>(2)まずは千歳市の現状では、5機能のうちどれが不足しているか、整備していく上で優先度等勘案しながら取り組んでいき、全ての機能を整備することを目指していく。関係機関それぞれの立場からの視点で分析していくことで、より具体的に現状や課題について把握していくことが可能となると思われると話し合われた。</li> </ul> </li> <li>3. 障がい福祉勉強会について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)第1回障がい福祉勉強会について</li> </ul> </li> </ol>

	<p>市内 19 機関から 35 名の参加があり、アンケート結果としては、「千歳市の概要等講義が聞きやすかった」、「交流会では良いグループワークとなった」等の感想があり、内容的にも良かったという意見が多かった。</p> <p>(2)第2回障がい福祉勉強会について</p> <p>日時：令和1年9月27日(金)、18:00～</p> <p>会場：千歳市社会福祉協議会 2階会議室</p> <p>テーマ：「就労支援の実際について知ろう！」</p> <p>実践報告(支援の内容等)：晴レルモキッチン(就労継続支援B型事業所)、株式会社ミナモト(就労継続支援A型・B型事業所)、石狩障がい者就業・生活支援センター</p> <p>プログラム構成について：講義(15分)、グループごとに自己紹介・テーマに沿った課題・問題意識等についての話し合い(15分)、実践報告(1事業所当たり20分程度×3事業所=60分～)、グループワーク～報告を聞いての振り返り・質疑応答等(30～40分)、時間がおした場合を見込んで、終了時間を20:10に設定しておく。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はたらく部会の視察研修(9月5日)でも、晴レルモキッチン・株式会社ミナモトの見学等が組まれている。そこも踏まえての障がい福祉勉強会の周知を行う。</li> </ul> <p><b>4. 地域課題(情報交換)について</b></p> <p>(1)地域の状況について確認</p> <p>「小規模多機能型ホーム くらしさ千歳」～今年6月1日から生活介護・短期入所・自立訓練の指定を受けている。</p> <p>「イグルー恵み野東」～一軒家タイプのグループホーム、男性対象で住宅街(恵み野駅から徒歩20分)空室あり。女性棟は準備中。</p> <p>「りんごハウス」～経営者が変わり、満室状態。</p> <p>(2)障がい福祉サービスから介護保険サービスへ移行となるケースについて、障がい福祉サービス利用者が介護認定で要支援1・2を受けた場合、介護保険事業所の事業内容によって対応できない場合があり、調整が必要になるケースがある。</p> <p>障がい福祉サービス利用者が介護認定を受け、介護認定を受けていない同居の家族がいる場合、介護保険サービスでは家事援助でサービスに入ることができないため、移行後の支援の内容について事前に十分な検討をすることが必要である。</p> <p>相談支援事業所が介護保険サービスの対象となりそうな利用者から相談を受けた場合、地域包括支援センターへつなぐことでスムーズな移行や把握漏れの防止にもつながると思われる。</p> <p><b>5. その他</b></p> <p>次回開催日程の調整について～早めに候補日を提案し日程を確定。</p> <p>その際、重点的に話し合う内容等についても併せてお知らせする。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

平成 31 年度 第 1 回 こども部会 報告	
日 時	平成 31 年 4 月 18 日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 401 号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、ブンブン ブンハウス(松田氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女 氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、十彩(尾崎氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、 北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市立北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学 校(古木氏) こども療育課(小林係長)、学校教育課(中川係長)、子育て総合支援センタ ー(近藤主査)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志 鎌相談員)
要 旨	<p>1.部会長挨拶、自己紹介</p> <p>2.活動内容について(前年度振り返り、今年度開催確認)</p> <p>3.情報提供(課題共有)</p> <p>4.その他</p>
会 議 内 容	<p>1.部会長挨拶、自己紹介</p> <p>部会長から、こども部会の開催頻度や内容について説明がある。前年度から担当が 変わり、初参加の方もいるため自己紹介をしている。今年度こども療育課の参加は小 林係長から吉田主査に変わり、副部会長も変更となっている。通園センターで居宅訪 問型児童発達支援の認可が下り、夏頃から事業を進めていく予定と話があった。</p> <p>2.活動内容について(前年度振り返り、今年度開催確認)</p> <p>(1)前年度振り返り</p> <p>レッツスマイル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとっては事業所以外の行事に参加することが良い機会になっている。</li> <li>・冬はボウリング、さけます情報館見学の2コースに分かれそれぞれ楽しむこと ができた。</li> <li>・冬について手品等で子ども達が喜んでいて良かった。</li> <li>・これまでと違ったアイデアも必要なのではないか。</li> <li>・学生ボランティアの確保が今後の課題。</li> </ul> <p>座談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の参加は少なかったが、支援者も含めて就労までの話しをできる機会で あった。</li> <li>・より多くの方が参加できるような工夫が必要。</li> </ul> <p>勉強会(支援者向け学校見学会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所都合により、1名しか参加できなかったため今年度もあれば別の職員に も参加してもらいたい。</li> </ul>

- ・以前お世話になった事業所や利用中の事業所職員に学校内で会うことができ、生徒にとっても良い機会になった。

#### 合同説明会

- ・時期は要検討。
- ・今年の春から利用してくれるきっかけになった。

### (2)今年度の開催について

今年度の活動内容について年間予定案を基に確認している。

#### レッツスマイル

- ・夏企画は8月3日(土)か10日(土)。冬企画は1月11日(土)の開催予定。

#### 座談会

- ・日程は9月を予定し、レッツスマイル夏企画参加者の保護者にも案内をできるようにする。

#### 勉強会

- ・昨年度に引き続き、支援者向けの勉強会を検討している。
- ・1月末～2月上旬を予定しているが、学校見学会となれば各学校との調整になる。
- ・日程、内容については次回6月の部会で話し合う。

#### 合同説明会

- ・はたらく部会との調整をして、11月末～12月上旬の開催を目指している。

#### 部会開催時間について

- ・事前に参加しやすい時間帯を記入してもらい、18時以降との意見もあったが今年度も第3木曜日午前中の開催になる。
- ・課題共有で挙げられた課題や事例等があり、部会内で話しきれない場合は、18時以降に時間を取る方法等検討していく。

### 3.情報提供(課題共有)

#### (1)事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月～金空き有。土曜応相談。移動支援：月水木空き有。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。移動支援：火水空き有。月木応相談。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。

第二ちとせくらぶ 児童発達、放課後デイ共に火、木～日空き有。月曜応相談。

事業所隣に、ドリームポケットという駄菓子屋がオープンし

	<p>た。事業所名を店員に伝えると、こども一人一回スマートボードの無料体験ができる。</p> <p>(2)課題</p> <p>関係機関や事業所間で一貫した支援やこどもの情報共有が必要と感じるが、放課後等デイサービス利用の方はセルフプランが多く担当者会議があまりない。その中で、事業所間の関係構築や情報共有の手法について今後検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども療育課の相談事業所では幼児の対応が手一杯で、学齢期の計画については少しずつであるが進めている状況。</li> <li>・学齢期の計画では福祉サービスに限らず、学校の情報や児童館について等含めて記載している。</li> </ul> <p><b>4.その他</b></p> <p>(1)次回開催について</p> <p>6月20日(木)10時～ 場所未定。</p> <p>(2)こども療育課から</p> <p>5月13日(月)10時～就学学習会を開催する。保護者向けの学習会であるが、支援者、事業所職員の参加も可能。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 こども部会 報告	
日 時	令和元年6月20日(木) 10:00~11:45
場 所	千歳市社会福祉協議会 会議室1
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、ちとせくらぶ(上村氏)、第二ちとせくらぶ(白井氏)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市立北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学校(古木氏) こども療育課(吉田主査)、学校教育課(吉見係長)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・志鎌相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.レッツスマイル夏企画について</li> <li>2.座談会について</li> <li>3.勉強会について</li> <li>4.情報提供(課題共有)</li> <li>5.その他</li> </ol>
会議内容	<p><b>1.レッツスマイル夏企画について</b></p> <p>福祉バスの空状況に合わせ、8月10日(土)に開催する。事前に挙げられていた候補地の中から、混雑予想、天候に左右されないこと、入場料等を鑑みて目的地を小樽市総合博物館に決定している。学生ボランティアについては、千歳市内、近郊の高校、大学、専門学校に依頼する。今後、千歳市社会福祉協議会のプチボラで高校生~大学生を対象に募集することも検討する。</p> <p>周知方法については、各学校の支援級に配付。他、ちゃんとや千歳民報等記事として案内できるところで周知する。役割分担について、ちらしの作成はちとせ療育教室はる。昼食手配は千歳市社会福祉協議会。ボランティア依頼はChipで行う。</p> <p><b>2.座談会について</b></p> <p>発達が気になる子どもの保護者を対象に、日頃の悩みや困りごとについてテーマごとの小グループに分かれて情報交換をしていく。</p> <p>9月開催予定。参観日等の学校行事を避けて、会場の空いている火曜日または木曜日の10時~12時で開催する。</p> <p>テーマについて、就学に向けて、福祉サービスについて(利用基準、サービスの違いなど)、就労に向けて(卒業後の支援など)の3つ設定する。支援者のみの話しではなく、実例として支援学校等卒業生の親からも話しが聞けると良いのではないかと意見がある。</p> <p><b>3.勉強会について</b></p> <p>1月下旬~2月上旬で支援者向けの学校見学会を開催する。南幌養護学校、千歳高等支援学校、北進小中学校の見学会を予定する。移動時間や見学時間から、南幌養護</p>

学校の見学と、千歳市内の学校見学の日程を分けたり、市内の見学については現地集合解散にしたりするなど、今後調整し決定する。

#### 4. 情報提供(課題共有)

##### (1) 事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水度応相談。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火金土日空き無。

移動支援：月水空き有。火日応相談。木金土空き無。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス別館 児童発達、放課後デイ共に月～金空き有。

第二ちとせくらぶ 児童発達、放課後デイ共に月土日空き有。火木金応相談。

みどり台 児童発達：火水空き有。放課後等デイ：土曜日応相談。

##### (2) 事業所イベントについて

エブリ・ぱすてる

7月27日(土)10時30分～13時30分、春日でこども向け縁日を開催する。

ちとせくらぶ

6月23日(日)10時頃から、第二ちとせくらぶ駐車場でフリースロー大会開催。

どなたでも参加可能。8月11日(日)10時～14時、第二ちとせくらぶ駐車場で盆踊り開催。かき氷等の販売も行う。

##### (3) 課題共有

性に関して、児童の事業所内で高学年のこども達の会話で性的な発言があった際どのように対応しているか。

- ・ 支援者の反応を楽しんでいるこどももいるため、毅然としている。
- ・ 公の場では恥ずかしいと言うことを伝えている。
- ・ 男女の担任間で、どちらが対応するか話している。

#### 5. その他

##### (1) 相談支援部会障がい福祉勉強会について

福祉職に就いて日が浅い方や、多職種から福祉職に就いた方を対象に自立支援協議会や千歳市の福祉サービスについて基本的なことを知ることができる勉強会を年4回開催している。第1回目の開催案内を各事業所ないでも周知してもらう。

##### (2) 次回開催について

8月22日(木)10時～場所未定。第三週木曜日は15日でお盆休暇の事業所もあるため1週開催を遅らせている。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 こども部会 レッツスマイル夏企画 報告	
日 時	令和元年8月10日(土) 8:30~15:00
場 所	目的地:小樽市総合博物館 集合・解散:千歳市総合福祉センター 移動:福祉バス利用
参 加 者	参加者:16名(内家族2名) スタッフ:7名 ボランティア:15名(千歳高校2名、文教大学13名) 計38名
要 旨	<p>1. 対象 千歳市在住の障がいのある就学1年前の幼児、小学生、中学生、高校生、その家族でサポート情報の提供の同意をしていただける方(家族の参加は任意、本人のみの参加可能)</p> <p>2. 内容 千歳市総合福祉センターから福祉バスを利用し、小樽市総合博物館で鉄道展示室や屋外車両展示を見学、蒸気機関車アイアンホース号に乗り、プラネタリウム鑑賞等をして過ごした。昼食は、お座敷列車を貸し切り各自自由に食べた。</p> <p>8:00 スタッフ・ボランティア集合 8:30 参加者千歳市総合福祉センター集合(9:00 出発) 10:30 小樽市総合博物館到着 12:00 昼食(お座敷列車を借りている) 13:30 小樽市総合博物館出発 15:00 千歳市総合福祉センター到着 随時解散</p> <p>3. 経費 (1) 収入 参加費 300円×16名 = 4,800円 (2) 支出 参加者及びボランティア弁当代 施設入館料 傷害保険 高速代料金 など</p>
会議内容	<p>1. 実施概要 目的地の小樽市総合博物館では、鉄道展示室や屋外車両展示の見学、蒸気機関車アイアンホース号の乗車体験やドームシアターでプラネタリウムの鑑賞などを行い、担当ボランティアや家族・スタッフと楽しく過ごした。施設の範囲が広く参加者それぞれの興味に合わせて行動する場面もあれば、みんなで集まって楽しむことが出来た。 昼食はお座敷列車を貸し切り、ゆとりのある時間設定の中で食事をとった。 天候は暑さや雨の予報を心配されたが、雨に当たることもほとんどなかった。スケジュールに関しても滞りなく進み、大きなトラブルや怪我も無く、無事終了した。</p> <p>2. スタッフ、ボランティア感想 (1) 運営や企画、参加されての感想 ・年齢層も幅広く、たくさんの子どもたちの接し方を学べた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのボランティアで緊張していたが、楽しく活動できた。</li> <li>・担当した子とたくさん話して仲良くなれた。</li> <li>・年上の人と話す良い機会になった。</li> <li>・一人ひとりがペアで付けたので、子どもとの関わりがしっかりと出来て良かった。</li> <li>・子どもとの距離が近く、とても良い経験になった。</li> <li>・トイレ休憩の際、男の子のトイレに時間がかかってしまっていた為、トイレに付く人をつけると良いのではないだろうか。</li> <li>・子どもたちで好きなように座ることが出来て楽しそうだった。</li> <li>・お弁当を持参している子は、用意してもらっているお弁当を見て羨ましそうだった。</li> <li>・参加者が比較的楽しめる場所だったと思う。</li> <li>・担当の子どもの年齢を書いてもらえると、何歳くらいの子と一緒に行動するのが事前にわかり、心の準備ができるのでありがたいと感じた。</li> <li>・保護者の方からの情報があることで、安心して活動できた。</li> <li>・タイムスケジュール通り、無事怪我も無く見学でき良かった。</li> <li>・時間も長すぎず短すぎずちょうど良かったと思う。</li> </ul> <p>(2) 今後の企画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もりもと工場見学      ・雪遊び</li> <li>・物づくりなど          ・一緒に運動会(スポーツ)、体育館を使ったレク</li> <li>・アスレチックなど</li> <li>・ボウリング、埋蔵文化財センターで勾玉作り</li> <li>・子どもについて知れるような活動</li> <li>・動物が好きな子が多かったので動物園もいいなと思った。</li> <li>・博物館・水族館や、夏なら水遊びも楽しそうだなと思った。</li> <li>・青少年科学館は色々な体験的な活動が出来るのではないかと思う。</li> </ul> <p>(3) 企画委員として参加可能かどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しても良い(興味がある)...12名</li> <li>・むずかしい...2名</li> <li>・未定...1名</li> </ul> <p><b>3. 参加者アンケート集計</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日程よく遊んで楽しく過ごせたのでよかった。</li> <li>・サポーターさんがついてくれるので安心がある。</li> <li>・アイアンホース号がとても楽しかったようでした。</li> <li>・冬も参加したいと話している。</li> </ul>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第2回 こども部会 報告	
日 時	令和元年 8月22日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 310-2号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、障がい者支援事業所ゆうび(岡野氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木(五月女氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、こども療育課(吉田主査)、学校教育課(吉見係長)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.レッツスマイル夏企画反省・冬企画について</li> <li>2.座談会について(進捗確認)</li> <li>3.情報提供(課題共有)</li> <li>4.その他</li> </ol>
会 議 内 容	<p><b>1.レッツスマイル夏企画反省・冬企画について</b></p> <p>(1)夏企画反省</p> <p>8月10日(土)に開催したレッツスマイル夏企画について、アンケートを基に振り返った。参加者からはアイアンホース号乗車やプラネタリウムなど、1日楽しく過ごすことが出来たと感想があった。また、学生ボランティアからは、一人ひとりペアで担当したことで子どもとしっかりと関わって良かったという点や自分の将来に向けての良い経験となったという感想があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ休憩時(ICや施設内)に対応するスタッフの人員配置には調整が必要。</li> <li>・施設の概要について、外の展示などあらかじめアナウンスしておいた方がより楽しめて良かったのではないか。</li> <li>・見学する場所が色々あり、時間を余すことなく楽しめていた。</li> <li>・ボランティアのアンケートから担当参加者に会う前に年齢等がわかれば心の準備が出来るとの意見があり、今後の参考としたい。</li> </ul> <p>(2)冬企画について</p> <p>夏企画のアンケートで次回の企画についての意見をいただき、その内容を中心に話し合っている。埋蔵文化センターで勾玉作りや外での雪遊び、ボウリング、ものづくり体験等の意見があり今後検討し、次回10月の部会で目的地を決定する。</p> <p><b>2.座談会について</b></p> <p>発達が気になる子どもの保護者を対象に、日頃の悩みや困りごとについてテーマごとに分かれて情報交換をしていく。日程は会場確保の都合で9月26日(木)、千歳市総合福祉センター402号室10時~12時で決定している。</p> <p>テーマについて、就学に向けて、福祉サービスについて(利用基準、サービスの違いなど)、就労に向けて(卒業後の支援など)の3つ設定する。</p> <p>周知の方法について、市内小中学校生徒への配布、関係事業所、ちゃんと等を予定</p>

し、各所に協力の依頼をする。学校、事業所で情報交換の場を求めている方、必要と思われる方へ声かけも行っていただくことをお願いしている。

#### 4. 情報提供(課題共有)

##### (1) 事業所空き情報について

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水応相談。

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火金土日空き無。

移動支援：水金土空き有。月火日応相談。木空き無。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス千歳桜木 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ブン・ブン・ブン・ハウス 児童発達：月火水木金空き有。

放課後デイ：火水木金土空き有。

##### (2) 課題共有

最近のケースとして登校困難な子どもに関する相談があり、学校へ行けるようになるきっかけ作りやそのような状態にならないための事業所の活用や対応について意見交換を行った。

- ・事業所での学校へ行けなくなりそうな子どもに対する支援では、学校での出来事を言ってもらえる関係性を作り、保護者と情報共有しながら対応について考えている。
- ・不登校の原因と考えられている学習不振は二次的なものであり、学習面の支援だけでは無く、子ども自身の課題に対する支援を考えることが重要なのではないか。
- ・長期休暇の宿題が終わらないことが学校へ行きたい理由になる。事業所の取り組みとして宿題がんばりデーを設定している。
- ・長期休暇の宿題のやり残しの原因は家庭環境にもあるが、保護者が学習面まで面倒を見られていない場合がある。
- ・集団で学習をする場を設けるだけでなく、アセスメントを通して弱い部分を見極め個々に合わせた学習支援を行っていくことも大切なのではないか。
- ・学習不振や学校へ行けなくなりそうな子どもに対して地域として支援力を高めていけるよう、各事業所の取り組みや成功体験の情報交換を行いながら、今後の部会の取り組みを考えていくこととし、方法については今後検討する。

#### 5. その他

##### (1) 全体会の報告

手話言語条例を推進していく部会が新たにできた。

##### (2) 次回開催について

10月17日(木)10時～場所未定。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第1回 はたらく部会 報告	
日 時	令和元年5月24日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	25名 千歳地域生活支援センター(奥貫)、就労移行支援事業所ゆうび(藏田)、エコファクトリー(結城)、株式会社ミエト(今井・鳴海)、株式会社ピアハーブ(猿山)、株式会社ひまわりの会(稲船)、株式会社帆の風(藤岡)、ウィンドバレー(千葉)、千歳物流センター(佐々木)、サポートセンターユリーカ(芦田)、青葉の杜、(田本)、スリーピース(仁木)、晴レルモキッチン(米澤)、Om-Net(牧野)、千歳こぶしクリニック(松田)、千歳病院デイケアひかり(橋場)、石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター Chip(横山・中村・吉田)、就労推進室やませみ(野田・下川部)
要 旨	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p>(1)自己紹介</p> <p>(2)前年度実施報告及び今年度実施計画について</p> <p>(3)視察研修について</p> <p>(4)合同説明会について</p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p>
内 容	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p>(1)自己紹介 今年度第1回の部会ということで自己紹介を行った。</p> <p>(2)前年度実施報告及び今年度実施計画について はたらく部会の概要について確認し、前年度の実施した内容について報告をした。今年度実施計画については、就労推進室やませみが前年度の実施した内容をふまえて計画案を提示し協議を行った。</p> <p>(3)視察研修について 多くの意見を抽出し反映していくため、事前にアンケートを配布した。今後のスケジュールや内容については、次回協議する。</p> <p>(4)合同説明会について 視察研修同様にアンケートを配布した。今後のスケジュールや内容については、次回以降協議する。</p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳物流センター 佐々木：「みんなをつなげる会」入会案内周知</li> <li>・エコファクトリー 結城：スタートダッシュ外×プロジェクト開催のお知らせ</li> <li>・ウィンドバレー 千葉：取扱い商品の案内配布等</li> </ul>
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第2回 はたらく部会 報告	
日 時	平成 30 年 7 月 24 日(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	22名 千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター Chip(中村・吉田)、千歳地域生活支援センター(奥貫・今野)、就労移行支援事業所ゆうび(藏田)、【複合型】いずみワークセンター(玉井)、【A型事業所】ピアルブ(猿山)、株式会社帆の風(藤岡)、就労支援センター Om-Net(毛利)、【B型事業所】ワステップ(眞鍋)、千歳物流センター(佐々木)、サークルイト(青木)、自立訓練施設蓮げ荘(森本)、青葉の杜、(田本)、晴れキッチン(米澤)【ケア】千歳病院ケアひかり(橋場)、桂病院ケアぼくら(葛西)【他市】石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)【事務局】就労推進室やませみ(野田・下川部)
要 旨	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p>(1) 各事業所から (2) 視察研修について (3) 合同説明会について (4) 地域課題について(課題抽出シートの検討)</p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p>
内 容	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p><b>(2) 視察研修について</b></p> <p>はたらく部会員にあらかじめ、意見・アイデア・訪問してみたい事業所等のアンケート調査を行った。それをふまえて視察研修先や日程について協議した。</p> <p>アンケートに多く出ていた意見としては「支援時間の関係上、全日参加をするのは難しいので半日がいい」「場所を絞った形」「各事業所でも反映できるような形」等があり、市内開催かつ短時間で実用性のある視察研修が求められている。</p> <p>その結果ふまえ、事務局やませみがスケジュール・内容等を検討することとなる。</p> <p><b>(3) 合同説明会について</b></p> <p>全体としては、例年通りの考え方であるが、来場者数が減少していることから、集客に対しての工夫が必要であることが述べられた。本協議では広告の工夫について、意見が出されたところである。</p> <p>前年度のチラシの内容について協議したところ、パッと見て理解できるような視覚的な表現にしてはどうか、例えば Q&amp;A 形式で「しばらくお仕事から遠のいてしまったが、仕事を始めるためにどうしたらいいだろう？」に対して「就労に関してそうだなできるところがあるんだって!」のようなチラシにて困り感を解消できそうだと思うような形式にしていくことが求められると意見が出た。</p> <p>会場について...例年北が文化ホールを利用していたが、予約を取れず、福祉センター、中心街コミュニティセンター等へ変更がある。日程について...11月30日(土)・12月7日(土)のいずれかに設定予定である。対象の表現について...(福祉サービスに関心のある方)(福祉事業所)</p> <p><b>(4) 地域課題について(課題抽出シートの検討) 第3回はたらく部会にもちこし。</b></p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回はたらく部会の曜日設定を金曜日と伝えたが今後、場所確保の関係上、金曜日の限りではない旨を連絡した。</li> <li>・晴れキッチン:福祉器具のPR</li> <li>・Chip:千歳市福祉協議会開催の社会福祉大会についてのPR</li> </ul>
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志 穂

令和元年度 第1回 地域生活部会 報告	
日 時	令和元年7月18日13:00~
場 所	めいぷるサロンしろっぷ(千歳市自由ヶ丘6丁目5番8号)
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、古田委員、千歳地域生活支援センター(奥貫センター長)、千歳市障がい者総合支援センター(横山センター長(事務局次長))
要 旨	<p>1. 今年度の活動について</p> <p>2. 情報共有(今年度の地域で生活されている方の情報)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 今年度の活動について</p> <p>前回部会で取り組みの方向性として確認した内容を再確認。</p> <p>(1) 地域課題の掘り起し</p> <p>(2) 在宅(支援)の課題(存在把握のできていない方への支援)</p> <p>(3) 気軽に相談できる場所の確保</p> <p>気軽に相談できる場作りについて検討してきたが、具体的取組の前に震災を経験する事となり、地域生活を送る上で当面の課題として災害対策についての検討が上げられた。</p> <p>協議会の各部会をはじめ、関わる皆さんが課題と感じた事に関して意見の取りまとめを行ない、整えられる備えや取組について検討を行う事で、在宅支援の課題等についての具体的な課題整理に繋げていく事を方向性としていく。</p> <p>次回の部会では、各所から情報を収集し検討することにする。</p> <p>2. 情報共有(今年度の地域で生活されている方の情報)</p> <p>重度心身障がい・知的障がい・精神障がい等、それぞれの障がいによって、経緯や理由は違うが、コミュニケーションを取りながら生活して行く事が難しい方々の具体的な例について情報を共有している。</p> <p>地域の具体的な話題や、事例を把握する為の取組についても話題が出て、直接の声を聴く為の取組についても意見交換を行った。</p> <p>3. その他</p> <p>次回の開催</p> <p>2か月後に開催を予定する。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第1回進路連絡会議 報告	
日 時	令和元年7月17日(水) 13:30~15:30
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	千歳市内事業所(17名) 養護学校・高等養護学校(15名) 事務局(3名) 行政(1名) 参加者合計 36名
要 旨	<p>1.平成30年度卒業生の状況</p> <p>2.就労アセスメントについて</p> <p>3.在校生の進路希望と実習状況</p> <p>4.情報交換会</p>
会議内容	<p><b>1.平成30年度 卒業生の進路動向について</b></p> <p>各学校(8校)から平成30年度卒業生の進路動向について報告があった。 卒業生28名中9名は、福祉事業所を利用し、就労継続B型2名・A型2名 就労移行支援5名。 生活介護2名、一般就労16名、進学1名の内訳となっている。 近年の傾向として卒業と同時に他地域の勤務先で生活する為にGHや社員寮で生活する卒業生が増えている。地元に戻っても自宅ではなく、GHで生活する方が増えている。他市町村から千歳に転入しGHで暮らす方も増え、進路先として働く場のみではなく、暮らしの場についても検討が必要となっている。</p> <p><b>2.就労アセスメントについて</b></p> <p>障がい者支援課から、来春卒業予定者の就労継続支援B型事業所利用に係る取扱いについて報告があった。 昨年度と同様に就労移行支援事業所によるアセスメントが必要であり、実施に当たっては、在学中にサービス等利用計画を相談支援事業所で作成することが必須である。</p> <p><b>3.在校生の進路希望動向について</b></p> <p>各学校(9校)から在校生の進路希望の報告があった。 高校3年生29名中13名が福祉事業所への通所を希望している。(一般就労14名、進学1名、未定1名) 高校2年生32名、1年生33名(報告のあった生徒の数のみ記載)の進路希望先は一般就労、福祉事業所利用の希望はおおよそ出ているが、1年生では進路希望について今後確認される学校もあった。</p>

進路検討の材料として、市内事業所から定員の空き情報や、活動の様子について情報をいただく。就労支援事業所の多くは受け入れ可能との情報を頂くが、生活介護、グループホーム、施設入所に関しては定員を超えての受入れの現状が話されている。

また、就労支援事業所からは、給与、工賃を支払っていく為に、施設外就労等の作業が増えているとの情報があった。

#### 4. 情報交換会

住まい・一般就労・福祉就労、直Bの3つのテーマに分かれて実施。

##### (1) 住まいについて

学校・グループホーム・相談支援事業所のそれぞれの立場から意見・課題等を聞いた。

グループホームの空き情報は少なく、将来的な住まいの確保に課題があることを共有している。

グループホームで生活し活躍されている話がある一方で、職場定着がうまくいかずに、経済的に生活の場の維持が困難になる。生活介護・施設入所等を希望される方の進路調整に苦労している等の話が出た。

##### (2) 一般就労について

学校・就労継続支援A型・B型事業所・就労推進室それぞれの立場から意見を聞いた。

作業能力とは別に社会人としての基本的なマナーを在学中に身につけられていることが重要との話があり、学校でも課題として取り組んでいると話があった。

また、実際の就労場面と実習場面では差異がある事を理解してもらう必要がある。

一般就労の希望も多くなり、企業開拓に関する学校、福祉事業所それぞれの現状についても意見交換を行った。限られた社会資源の利用に関して連携を深めていければとの意見が出ている。

##### (3) 福祉就労について

学校・生活介護事業所・就労継続支援B型事業所・相談支援事業所のそれぞれの立場から意見を聞いた。

就労アセスメントの実施内容について、他市町村の取り扱いについて等の情報の話があった。

アセスメントの時期、平日に行うと学校を休むことになる件や、生徒によっては移行支援事業所に通ってのアセスメントが難しい方がいるなどの課題が出ている。

就労を断念、今後の目標として就労継続B型を希望する方と、生活介護と就労継続B型との選択でB型を希望する方との意識や経過の違いについても意見が交わされた。

今年度就労アセスメント対象者の対応事業所について、それぞれ受け入れの事業所について、仮の調整が行われている。

作成者

千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第1回 手話言語条例推進専門部会 報告	
日 時	令和元年 8月30日(金) 19:00～20:30
場 所	千歳市社会福祉協議会 2階2・3会議室
参 加 者	千歳聴力障害者協会(佐藤会長(部会長))、千歳手話の会(神能会長)、手話サークルしらかば(岩倉会長)、千歳要約筆記の会やませみ(久保田会計) 北海道手話通訳問題研究会道央支部千歳・恵庭班(中村班長)、千歳身体障害者福祉協会(長助澤副会長)、千歳市社会福祉協議会(川北専従手話通訳)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長))、障がい者支援課(新谷課長、甲木係長、佐藤係長)
要 旨	<p>1. 自己紹介</p> <p>2. 活動方針</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 自己紹介</p> <p>(1)各出席者から自己紹介を行った。</p> <p>2. 活動方針</p> <p>(1)千歳市障がい者地域自立支援協議会について説明。  様々な地域課題について、情報共有、検討しながら解決していく会で、各事業所や公募市民等26名に参加いただき、年4回ほど定例会を開催している。  2つの専門部会(差別解消・虐待防止専門部会、手話言語条例推進専門部会)と、4つの地域部会(相談支援部会、こども部会、はたらく部会、地域生活部会)1つの協力組織(進路連絡会議)があり、各部会等で協議した内容は、自立支援協議会に報告し、情報共有している。</p> <p>(2)千歳市手話言語条例制定までの経緯と条例の内容について説明。  手話言語条例制定にあたっては、平成29年3月に手話言語条例専門部会が設置され、平成30年1月まで計11回にわたって条例に関する協議を続けてきた。それらを経て平成30年3月8日に「千歳市手話言語条例」が制定された。  千歳市手話言語条例では、一般的な条例にはない前文が制定されており、その中で言語の定義や手話が言語として認められてこなかった歴史的背景などが盛り込まれている。</p> <p>(3)活動方針について  千歳市手話言語条例第6条(1)～(3)の施策の推進に関する検討を行うこととした。  【千歳市手話言語条例第6条(施策の推進)】  (1)手話に対する理解の促進及び手話の普及を図るための施策  (2)手話による意思疎通及び情報の取得がしやすい環境づくりのための施策  (3)手話通訳者の確保及び養成をはじめとする手話による意思疎通支援のための施策  (4)前3号に掲げるもののほか、この条例の目的を達成するために必要な施策</p>

	<p><b>3. その他</b></p> <p>(1) 部会構成員について、千歳聴力障害者協会主体で開催している千歳市手話言語条例推進委員会の3つの部会の各部会長を専門部会に加えたいとの提案があったが、推進委員会と専門部会のあり方について、全会の一致が得られなかったことから、次回の検討事項とした。</p> <p>(2) 部会開催については、3か月に1回、年4回程度の開催とする。</p> <p>(3) 次回の開催は10月中を予定する。</p> <p>(4) 次回の障がい者地域自立支援協議会定例会は11月頃に開催予定。</p>
作成者	千歳市保健福祉部障がい者支援課障がい福祉係 甲木 心之介